



2020年8月21日

時代の転換期、都市と農山村の関係はどうあるべきか
「真庭なりわい塾 オンライン特別セミナー」全7回開催

岡山県真庭市で開催する人材育成塾「真庭なりわい塾」では、コロナ禍を生き抜くための全7回のオンライン特別セミナーを開催します。各分野の第一線で活躍する多彩なゲストと、真庭なりわい塾の塾長・副塾長による^{ていだん}鼎談を通して、変容しつつある社会と心の在り処をみつめつつ、明日を生きるための指針と希望を見出していきます。都市集中型社会の脆弱性が浮き彫りになった今、真庭市を始め各地の農山村が本来持っている「豊かさ」や「幸福感」からつながる持続可能なライフスタイルのつくり方を提案します。

アフターコロナを生きる、未来のあなたへ
～7つの視座から明日を生きるヒントを探る～

<プログラム>

日 時：2020年9月～2021年3月 全7回（毎月第3土曜日：午前10時～11時半）

参加費：各回1,000円（ZOOM ウェビナーを活用・一部録画収録あり）

ホームページから受付：「真庭なりわい塾ホームページ」 <https://maniwa-nariwai.org/>

聞き手：渋澤寿一（塾長）／駒宮博男（副塾長）

日 程：

- 1) 9月19日（土） 藤原 辰史（農業史研究者）
「パンデミックを生きる指針～歴史研究のアプローチ～」
- 2) 10月17日（土） 辻 信一（文化人類学者）
「しあわせの経済～経済成長がなければ、私たちは豊かに生きられないのか～」
- 3) 11月21日（土） 五箇 公一（保全生態学者）
「自然界の逆襲～コロナ・気候変動・生態系危機の原因は何か」
- 4) 12月19日（土） 内山 節（哲学者）
「コロナ禍に改めて問う農山村の価値」
- 5) 1月16日（土） 佐々木 実（ジャーナリスト）×占部 まり（医師）
「共に生きるための経済～宇沢弘文の思想に学ぶ～」
- 6) 2月20日（土） 山極 寿一（霊長類学者）
「オンラインは万能か～人間の五感と身体性～」
- 7) 3月20日（土） 太田 昇（真庭市長）
「真庭なりわい塾が目指すもの～里山資本主義の明日へ～」

問い合わせ先

真庭なりわい塾事務局

（岡山県真庭市交流定住推進課内 岡山県真庭市久世 2927-2 担当：福井）

TEL 0867-42-1179 FAX 0867-42-1353 メールアドレス koryu@city.maniwa.lg.jp

<講師プロフィール>



◇藤原辰史（京都大学人文科学研究所准教授・農業史研究者） 主に20世紀の食と農の歴史や思想を研究。『ナチスのキッチン』で第1回河合隼雄学芸賞を受賞。コロナ禍にいかにかに生きるべきかを歴史学の立場から考察したテキスト「パンデミックを生きる指針」は、4月にネット上で公開されるやSNS等で話題に。



◇辻 信一（文化人類学者・環境＝文化アクティビスト） 「ナマケモノ倶楽部」代表。「スローライフ」、「ハチドリのひとつづく」、「100万人のキャンドルナイト」、「しあわせの経済」などのキャンペーンを展開する。著書に『スロー・イズ・ビューティフル』等、映像作品に『アジアの叢智』等。



◇五箇公一（国立環境研究所生態リスク評価・対策研究室室長・保全生態学者） 専門は生態学・ダニ学。外来生物や化学物質による生態影響評価の研究プロジェクトリーダーを勤める。環境省の「コロナ後の日本の未来と希望を考える会～気候危機を乗り越え、新しい自然共生を目指す～」では座長を務める。



◇内山 節（哲学者） 東京と群馬県上野村を往復しながら暮らす、全国にファンをもつ著名な哲学者。自然と人間、労働のあり方、コミュニティ等について、深い考察を展開する。著書に「日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか」「内山節のローカリズム原論」「新・幸福論」等多数。



◇佐々木 実（ジャーナリスト） 日本経済新聞社を経てフリーランスに。竹中平蔵氏の人生を追った評伝『市場と権力「改革」に憑かれた経済学者の肖像』の取材過程で故・宇沢弘文氏と出会う。後に著した『資本主義と闘った男 宇沢弘文と経済学の世界』は600頁を超える大著。



◇占部まり（医師・宇沢国際学館取締役） 故・宇沢弘文氏の長女。東京慈恵医科大学卒業。1992～4年にメイヨークリニック、現在は地域医療の充実を目指し内科医として勤務。2014年宇沢氏の死去に伴い、宇沢国際学館取締役に就任。「社会的共通資本」をはじめとする宇沢氏の経済理論の普及に尽力する。



◇山極寿一（第26代京都大学総長・霊長類学者） 理学博士。日本モンキーセンター研究員、京大霊長類研究所助手、京大大学院理学研究科教授を経て、2014年第26代京大総長に就任。霊長類学者。特にゴリラ研究の第一人者として知られ、類人猿の行動や生態をもとに人間社会の由来を探る。



◇太田 昇（岡山県真庭市長） 岡山県久世町（現・真庭市）出身。2013年、京都府副知事を辞職し、真庭市長選挙に出馬して当選。現在、2期目。豊かな木質資源を活用したバイオマス発電やCLT（Cross Laminated Timber）の普及、地域人材育成等に戦略的に取り組む。

<塾長・副塾長>



◇渋澤寿一（真庭なりわい塾長・NPO法人共存の森ネットワーク理事長） 東京農業大学大学院卒業後、JICA 専門家としてパラグアイに赴任。帰国後、循環型都市「ハウステンボス」の企画・運営に携わる。現在、NPO 法人の理事長として、森づくり、地域づくり、人づくりを実践。渋澤栄一の曾孫にあたる。



◇駒宮博男（真庭なりわい副塾長・NPO法人地域再生機構理事長） 東京大学中退。幼少よりゲーデルなど、数学基礎論について父に聞かされて育つ。高山研究所を経て、(株)ヘルス・プログラミング設立。その後、NPO 活動を開始。食やエネルギーの自給と地域自治の再生による、持続可能な社会の実現を目指す。